

重信川中流域の鳥類調査

2006年



愛媛県立松山中央高等学校
バードウォッチング部

I はじめに

部長 高田直紀

私たち松山中央高校バードウォッチング部は、学校のすぐ側を流れる重信川を中心に活動し、これまで多くの野鳥を観察してきました。これまで重信川中流域で行ってきた調査のデータはとても貴重なもので、これを眠らせておくのはもったいない、できるならたくさんの人に知ってもらいたい、そういう思いからこの冊子は作られました。1993年、1996年、2002年にも同様な冊子が発行されており、今回で4冊目になります。

2006年は、これまでと同様の調査を行うには調査メンバーの数が不十分であることを考慮して、全く別の調査を行いました。野鳥がさえざっている場所を地図に書き記し、テリトリー（縄張り）の広さ、場所などを調べていく「テリトリーマッピング」という調査です。重信川中流域にはヒバリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロなどといった比較的目立つ場所でさえざる種類が生息しています。今回、この中でも個体数がそれほど多くなく調査しやすいと思われた、ウグイス、オオヨシキリ、セッカの3種（いずれもウグイスの仲間）を調査対象としました。将来、環境の変化などによってこれらの小鳥たちが中流域で減っていたり見られなくなったりしているかもしれません。そういった変化を見極めるのに今回の調査結果が貴重な資料となるものと考えます。しかし、今年は部員が少なく、調査を始めてまだ1年目ということもあり、一部の範囲でしか調査を行うことができませんでした。今後も、今回対象としなかった種も含めて、引き続きデータを補充していきたいと考えています。

一方、累積記録では、創部から2007年1月現在までの部員によるすべての観察記録と、日本野鳥の会愛媛県支部の相川善一氏による、主に1980年代の観察記録をまとめています。その結果、中流域だけで現在154種もの野鳥が記録されています。これらの貴重な記録が後輩たちに受け継がれ、累積データが次第に充実していくことを願っています。

最後に、貴重な観察記録を提供して下さった相川善一氏、野鳥写真を提供して下さった、日本野鳥の会愛媛県支部の宮岡速実氏及び山本泰彦氏に心より感謝いたします。

目 次

I	はじめに	
II	調査	1～9
	1. 方法	1
	2. 対象地域	2～4
	3. 調査風景	4
	4. 調査範囲	5
	5. 結果と考察	6～9
III	累積記録	10～26
	1. 各種解説に関する説明	10
	2. 各種解説	11～20
	3. 記録写真	21～26
IV	あとがき	27
V	文献	28
VI	部員紹介	28

表紙写真 トウネン（2003年5月23日 重信川 サンパーク南）

Ⅱ 調 査

1. 方法

松山中央高校バードウォッチング部は重信川中流域において、本地域で繁殖していると考えられるウグイス、オオヨシキリ、セッカの3種を対象として、テリトリーマッピングという調査を行った。この調査は、テリトリー（縄張り）を持つ個体ごとに行動を観察し、そのテリトリーの位置や範囲を地図上に記すというものである。バードウォッチング部にとって、この方法による調査は今回が初めての試みである。

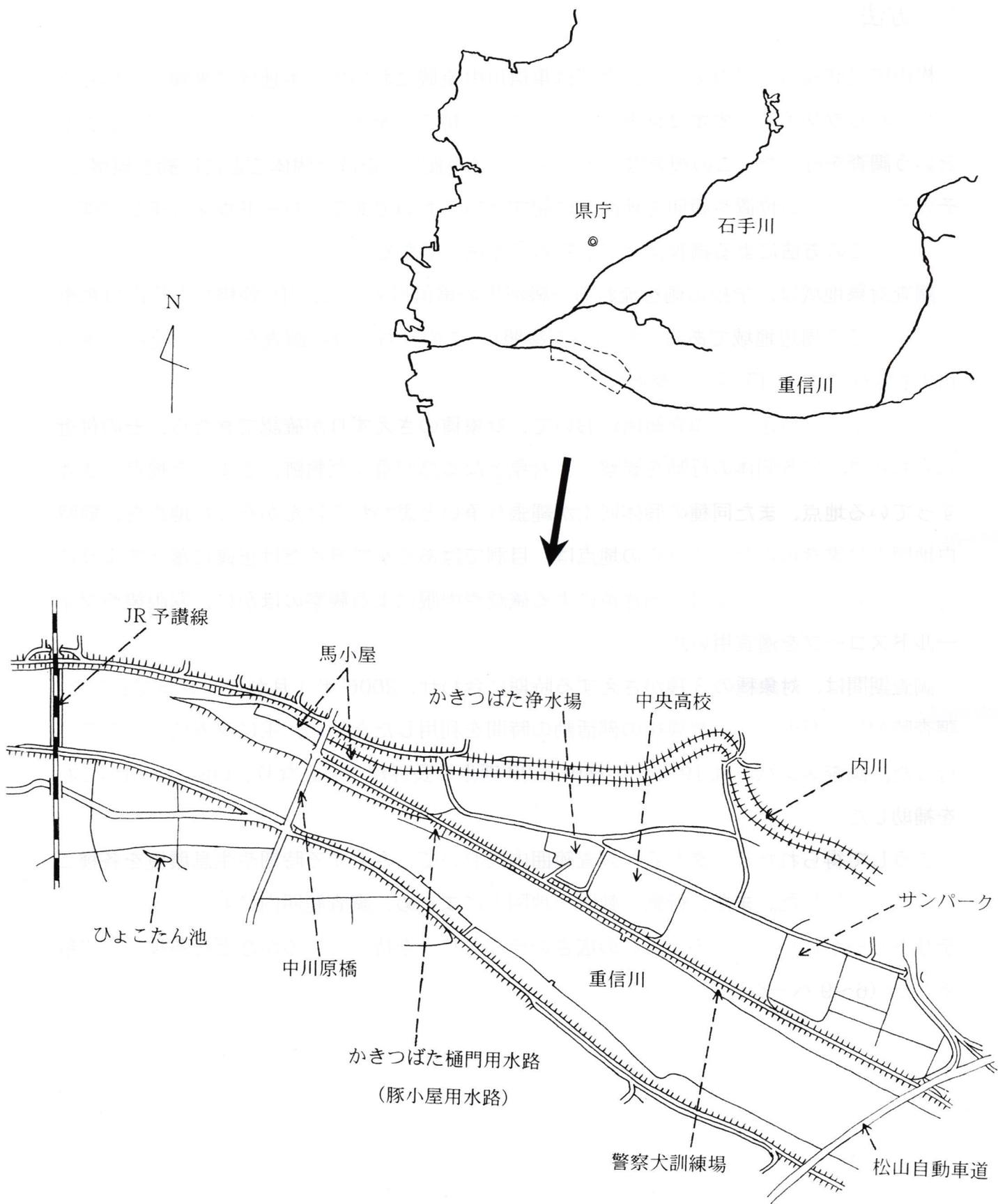
調査対象地域は、学校の側を流れる一級河川の重信川のうち、JR 鉄橋から松山自動車道までとその周辺地域である（2 ページ参照）。このうち、今回調査を行った範囲は重信川の右岸側である（5 ページ参照）。

調査方法は、前述した調査範囲において、対象種のさえずりが確認できたら、その付近に立ち止まって各個体の行動を観察し、対象となる鳥が飛んだ軌跡、とまった地点、さえずっている地点、また同種の個体同士が縄張り争いと思われるけんかをした地点を、随時白地図上に書き込んだ。これらの地点は、目測ではあるができるだけ正確に落とすように努めた。観察手段としては、鳴き声による確認や肉眼による観察のほかに、双眼鏡やフィールドスコープを適宜用いた。

調査期間は、対象種の3種がさえずる時期に合わせ、2006年4月から9月までとした。調査時刻は、原則として放課後の部活動の時間を利用したために、主に夕方頃の時間帯に行った。調査メンバーは19期生の高田と20期生の長谷が中心となり、OBの小川がこれを補助した。

こうして得られたデータから、調査範囲内において、さえずる時期や生息環境を各種ごとに明らかにした。また、行動の軌跡を地図上にまとめ、調査範囲内においてどれだけのテリトリーが存在し、どのくらいの広さのテリトリーを持っているかなどを各種ごとに解析した（6～9 ページ）。

2. 対象地域



地点写真1 中央高校の南側から松山自動車道



地点写真2 中川原橋の上流側



地点写真 3 中川原橋の下流側

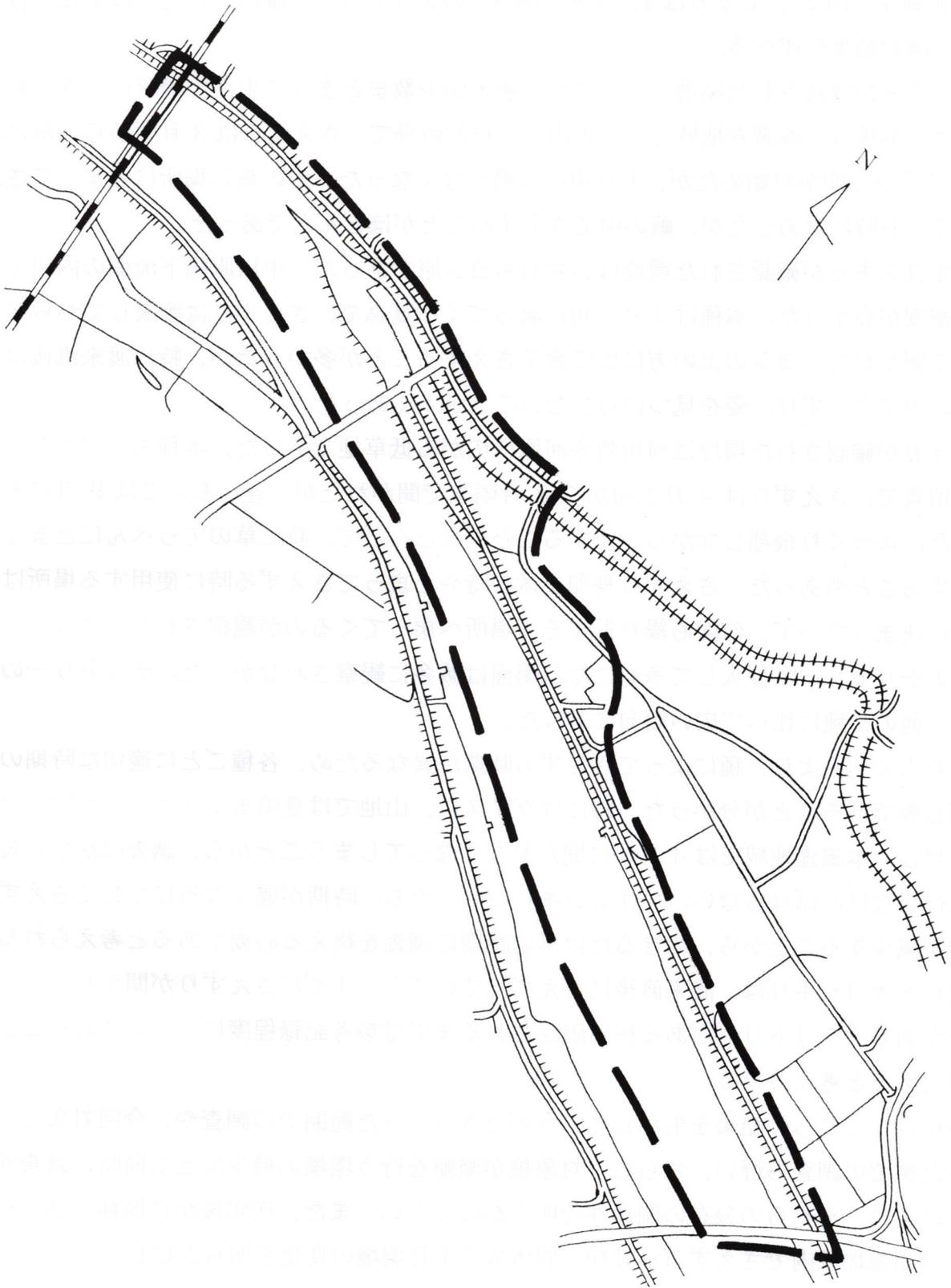


3. 調査風景

調査風景



4. 調査範囲



5. 結果と考察

今回、調査を行った結果、調査範囲内においてウグイスは 2 個体（図 1）、オオヨシキリは 9 個体（図 2）、セッカは 12 個体（図 3）のテリトリーが確認された。以下に、各種ごとに調査結果を述べる。

ウグイスが確認された環境は、いずれも樹木が少数まとまって生えた場所にできた藪であった。本種は、本調査地域では一年中見られる留鳥で、さえずりは 3 月頃から、早ければ 2 月頃から聞かれ始めたが、4 月中には鳴かなくなった。木の高い場所にとまってさえずることも時にはあったが、藪の中でさえずることがほとんどであった。

オオヨシキリが確認された環境はいずれもヨシ原であった。中川原橋下流側の内川では生息密度が高かった。本種は 4 月下旬に渡ってくる夏鳥で、さえずりは渡来してから 7 月頃まで聞かれた。ヨシの上の方に出てきてさえずることが多かったが、特に渡来直後はヨシ原の中でさえずり、姿を見つけられないことが多くあった。

セッカが確認された環境は河川敷や河原に広がる低草地であった。本種もウグイスと同様に留鳥で、さえずりは 4 月上旬から 8 月頃まで聞かれたが、遅いものでは 9 月にも聞かれた。ゆっくり飛翔しながらさえずることがほとんどで、時に草のてっぺんにとまってさえずることもあった。さえずり飛翔を休む時やとまってさえずる時に使用する場所はだいたい決まっていて、何度も繰り返しその場所へ戻ってくるのが観察された。隣接する他個体のテリトリーに侵入して争いになる場面は滅多に観察されなかった。テリトリーの広さは、他の 2 種に比べて広い傾向にあった。

これらの結果より、種によってさえずる時期が異なるため、各種ごとに適切な時期の調査が必要であることが分かった。特にウグイスは、山地では夏頃までさえずりが聞かれるのに対し、本調査地域では 4 月中に聞かれなくなってしまうことから、調査はかなり短期間に行わなければならない。オオヨシキリやセッカも、時期が遅くなるにつれてさえずる個体が減少することから、できるだけ早い時期に調査を終える必要があると考えられる。ただしオオヨシキリは、渡来直後にさえずっていても、すぐにさえずりが聞かれなくなることがあり、テリトリーがある程度固定されるまでは参考記録程度にとどめておくことが無難であると考えられる。

今後は、これらの結果を生かして、今回できなかった範囲での調査や、今回対象としなかった種での調査も行い、さらに、対象種が繁殖を行う環境の植生なども同時に調査することにより、それらの分布の関連性を明らかにしたい。また、何年後かに同様の調査を行い、本調査地域内でさえずる小鳥類の個体数や生息環境の変化を明らかにしたい。

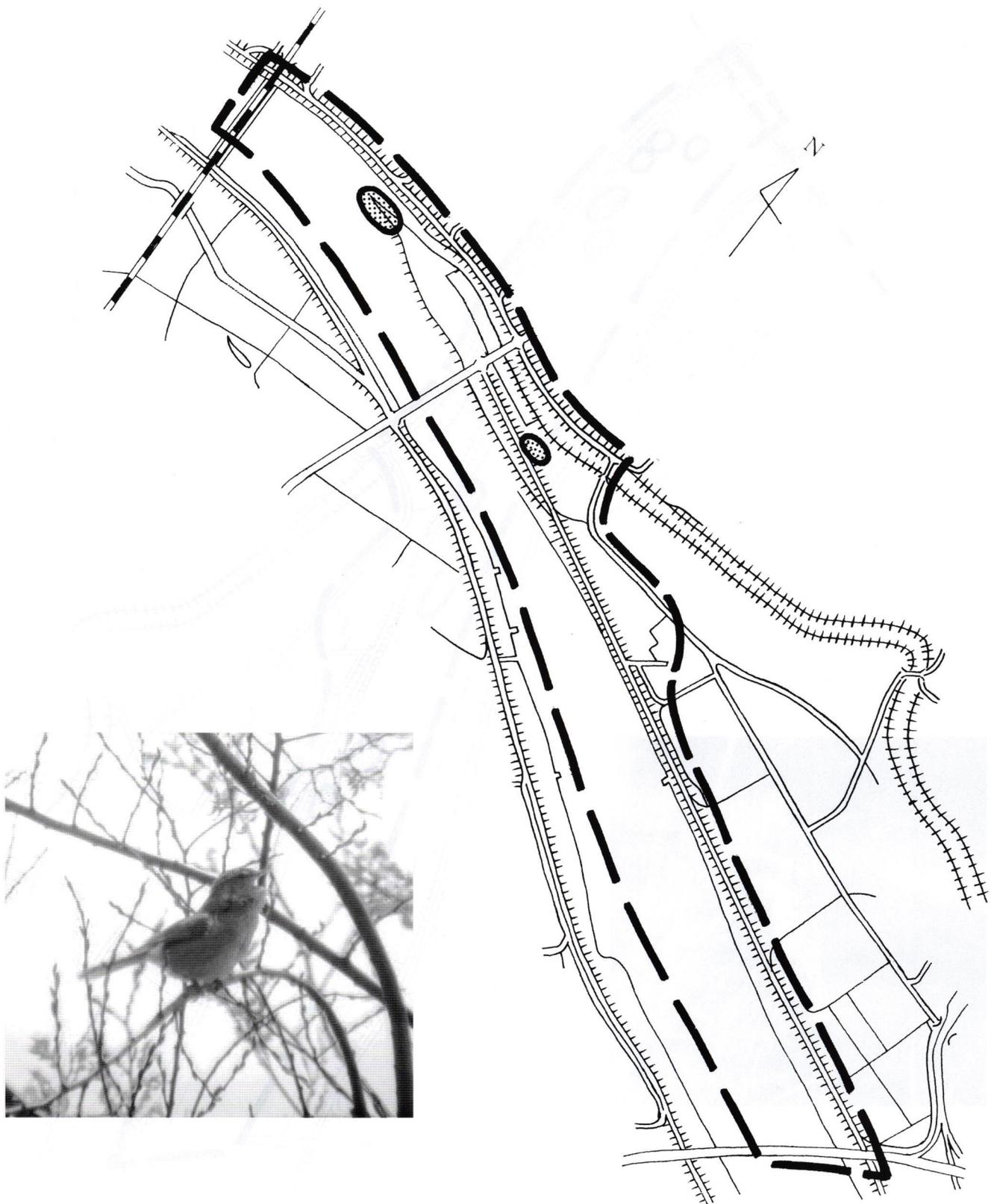


図1 ウグイスのテリトリーの分布

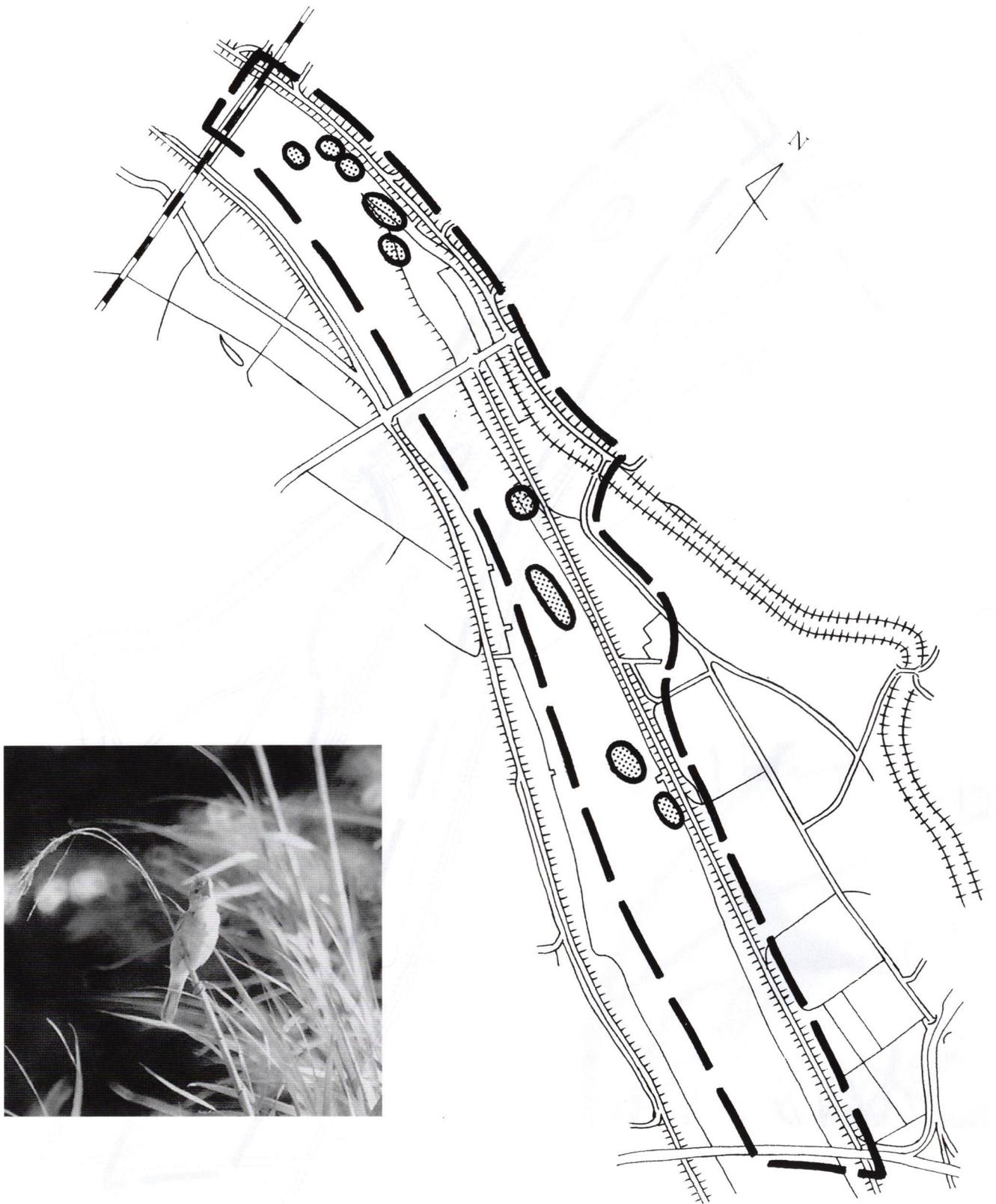


図2 オオヨシキリのテリトリーの分布

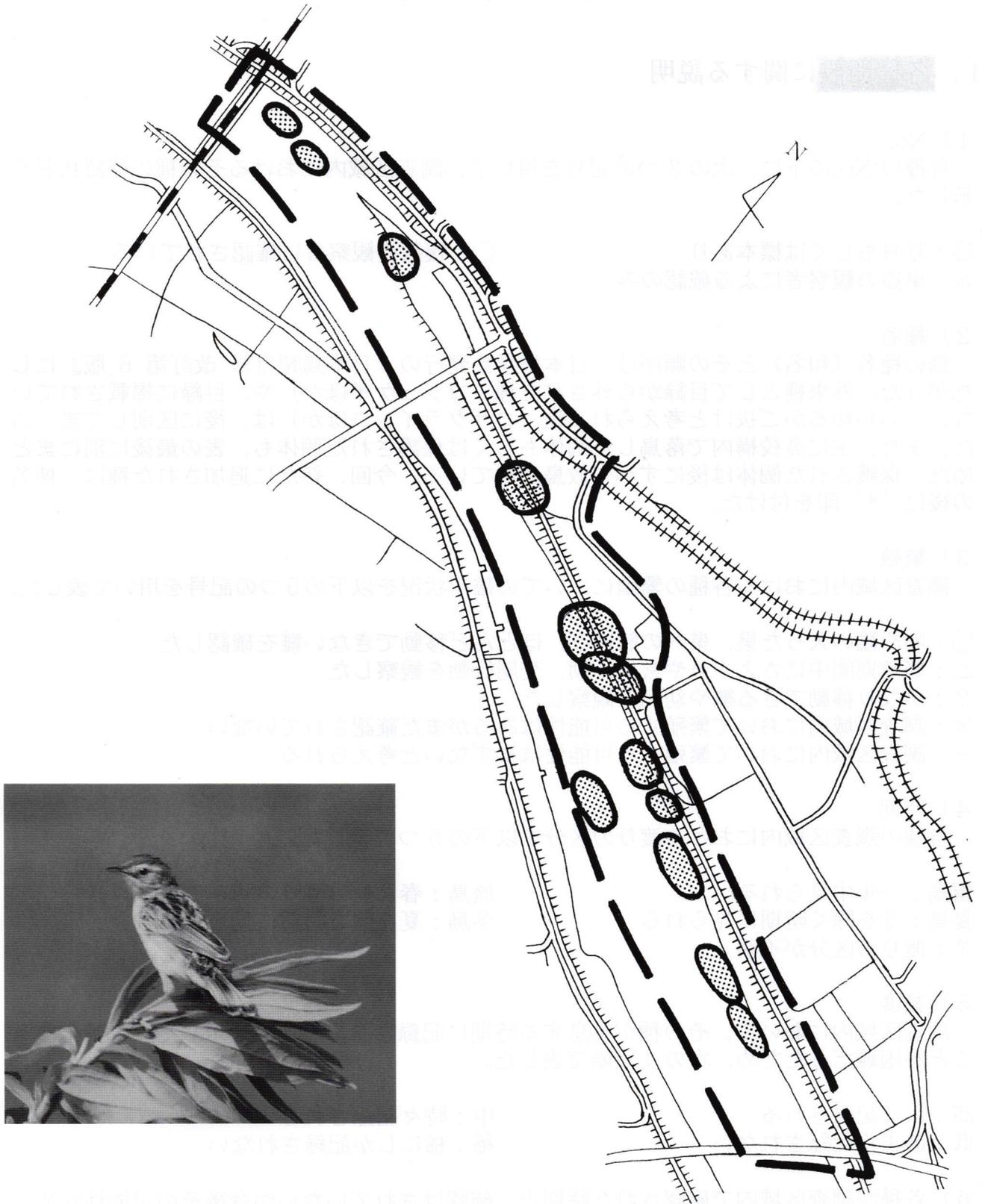


図3 セッカのテリトリーの分布

Ⅲ 累積記録

1. 各種解説に関する説明

1) No.

各種の No.の下に、次の3つの記号を用いて、調査区域内におけるその種の確認状況を示した。

◎：写真もしくは標本あり

○：複数の観察者に確認されている

×：単独の観察者による確認のみ

2) 種名

鳥の種名（和名）とその順序は、日本鳥学会発行の『日本鳥類目録 改訂第6版』にしたがった。外来種として目録から外された種（コジュケイほか）や、目録に掲載されていない、いわゆるかご抜けと考えられる種（コザクラインコほか）は、後に区別してまとめた。また、主に高校構内で落鳥した個体もしくは保護された個体も、表の最後に別にまとめた。保護された個体は後にすべて放鳥されている。今回、新たに追加された種は、種名の後に‘*’印を付けた。

3) 繁殖

調査区域内における各種の繁殖についての確認状況を以下の5つの記号を用いて表した。

○：卵や雛の入った巣、巣への餌運び、ほとんど移動できない雛を確認した

△：繁殖期間中にさえずりや営巣行動、交尾行動を観察した

？：かなり移動できる雛や幼鳥を観察した

×：調査区域内において繁殖する可能性はあるがまだ確認されていない

—：調査区域内において繁殖する可能性はまずないと考えられる

4) 時期

各種の調査区域内における渡りの区分を以下の5つで示した。

留鳥：一年中見られる

旅鳥：春と秋の渡りの時期に見られる

夏鳥：冬を除く時期に見られる

冬鳥：夏を除く時期に見られる

？：渡りの区分が不明

5) 頻度

調査区域内において、その種が生息する時期に記録される可能性を示した。数値化することが困難だったため、次の4段階で表した。

高：よく記録される

中：時々記録される

低：あまり記録されない

稀：稀にしか記録されない

6) 各種が調査区域内で確認された時期と、確認はされていないが今後その可能性がある時期を、以下の2つで示した。各月が2つに分かれているが、これは上旬（15日まで）と下旬（16日以降）を表している。

■：確認されている

▣：今後確認される可能性がある

2. 各種解説

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	カイツブリ	?	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	かきつばた樋門用水路の堰堤が改修されるまでは中川原橋の上流側に多かった。最近ほとんど橋の下流側で見られる。2001年6月に、巣立ってからしばらく経過していると思われる雛が確認されている。															
2	カンムリカイツブリ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1997年1月10日に1羽、中川原橋の下流側で観察されたのが唯一の記録。時に内陸の池に現れるが、あまり広くない河川の中流域で記録されることは珍しいと思われる。															
3	カワウ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1994年1月7日に初めて、川の上空を飛ぶ1個体が記録された。その後、徐々に観察記録が増加しているが、ほとんどが通過個体である。2001年からは越冬個体も確認されるようになった。2006年12月23日には中川原橋の上流側で180羽を超える群れが観察された。															
4	ヨシゴイ	×	夏鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1991年6月4日と翌5日に、かきつばた樋門用水路の葦原で1羽が観察されたが、その後は記録がない。本種が生息できるくらい広い葦原があれば、葦原に依存する他の種も記録が増えると考えられる。															
5	ゴイサギ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	以前、かきつばた浄水場の西側にある雑木林をねぐらにしていた時期があったが、近年は利用していない。かきつばた樋門用水路や中川原橋の下流側の岸で観察されることが多い。															
6	ササゴイ	×	夏鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1995年の大洪水以降、ほとんど観察されなくなっていたが、近年、再び記録されるようになった。それでも個体数は非常に少なく、内川で少数が見られる程度である。															
7	アマサギ	-	夏鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	農耕地にすることがほとんどであるが、増水時などに川原で少数が見られることもある。越冬個体が時々確認される。															
8	ダイサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	個体数は夏期に多く、冬期に少ない傾向がある。群れていることが多く、アオサギなどと行動をともにすることが多い。															
9	チュウサギ	-	夏鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	時々川で観察されるが、記録は少ない。2001年12月11日に1羽が川原で確認されており、越冬個体の可能性がある。															
10	コサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	水の浅いところに多い。以前に比べて、近年は観察される個体数が少なくなった印象がある。かつて、かきつばた浄水場の西側の雑木林をコサギを中心とするサギ類がねぐらにしていた時期があった。															
11	アオサギ	-	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	川原に多いが、農耕地にも多く、よく群れている。ダイサギと同様に夏期に個体数が多く、冬期に少ない傾向がある。															
12	マガモ	×	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	ほぼ一年中観察されているが、繁殖は未確認。冬期の個体数はカモ類の中では多い方であるが、川の水量に影響され、変動が激しい。															
13	カルガモ	×	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	6月頃まで観察されているが、繁殖は未確認。観察される個体数は少ない。重信川河口には多く、それより上流には少ないようである。石手川には個体数が少ない。															
14	コガモ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内で最も個体数が多いカモ類。渡来してしばらくはかきつばた樋門用水路に多い。秋期、越冬のために渡ってくるカモ類の中では最初に記録される。															
15	ヨシガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内において記録自体少なく、観察される個体数も少ない。本種は重信川河口に少なくないが、あまり上流へは上がって来ないようである。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
16	オカヨシガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■								
◎	前種同様、本種も観察される個体数は少ないが、記録はヨシガモよりも多い。本種もあまり上流へは上がって来ないようである。															
17	ヒドリガモ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	以前は冬期の個体数が多かったが、近年減少した。他のカモ類に比べて、岸に上がって休んだり採餌したりする個体が多い。															
18	オナガガモ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	比較的上流へも上がってくるカモ類である。もともと観察される個体数は多くなかったが、ヒドリガモと同様に本種も少なくなってきた。															
19	シマアジ	-	旅鳥	低				■	■	■				■	■	■
◎	春と秋の渡りの時期に、単独やつがいで、もしくはコガモに混じって1~3羽が観察されている。2001年11月24日に1羽が記録されたが、越冬はしなかったようである。															
20	ハシビロガモ	-	冬鳥	低	■	■	■	■							■	■
◎	観察される個体数だけでなく記録自体も非常に少ない。記録されているのはほとんどが雌で、雄は1例のみである。本種もヨシガモ同様、あまり上流へは上がって来ないようである。															
21	ホシハジロ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■							■	■
×	記録は非常に少ない。本種は次種とともに、県内において湖沼に入ることが多く、あまり広くない河川で観察されることは少ないようである。															
22	キンクロハジロ	-	冬鳥	稀											■	■
◎	記録は非常に少なく、10月下旬から11月上旬にかけてと12月下旬に記録されているのみである。すべて中川原橋の下流側で観察されている。															
23	スズガモ	-	冬鳥	稀											■	■
◎	記録は非常に少なく、10月下旬から11月上旬にかけてのみ記録されている。すべて中川原橋の下流側での観察記録で、雄の記録はない。本種は河口部によく見られる。															
24	ミサゴ	-	留鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して観察されるが、ほとんどが通過個体である。最近、調査区域内における確認例が増えてきたが、原因は不明。															
25	トビ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中見られるが、個体数は少ない。															
26	オオタカ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	主に冬期に単独で観察されることが多い。9月に幼鳥が何度か観察されており、調査区域からそれほど離れていない場所で繁殖している可能性がある。															
27	ハイタカ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に1羽もしくは2羽が、川の上空で観察される。2005年から2006年にかけての冬期、本調査地域では例年になく多くの個体が越冬した。															
28	ノスリ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■							■	■
○	1996年11月15日に学校の東側の農耕地上空で、2002年1月9日に中川原橋の下流側の岸で、それぞれ1羽が観察された。															
29	チュウヒ*	-	冬鳥	稀	■	■	■	■							■	■
○	2003年4月12日に雄が1羽、中川原橋のすぐ上流側で観察されたのが唯一の記録である。渡りの途中に立ち寄ったものと思われる。															
30	ハイロチュウヒ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■							■	■
○	2002年2月6日と同年3月20日、ともに雌が1羽、中川原橋付近で観察された。この年の冬、本個体が重信川とその周辺の農耕地に滞在していた。															
31	ハヤブサ	-	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して観察され、よくサンパークの電波塔の上にとまっている。幼鳥も時々確認される。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
32	チゴハヤブサ	—	旅鳥	稀												
×	1993年9月28日に2羽が、学校付近上空を西方向へ移動するのが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。渡りの途中の個体と思われる。															
33	チョウゲンボウ	—	冬鳥	中												
◎	川や農耕地の上空を停空飛行（ホバリング）している姿がよく観察される。1999年11月13日には首が白い個体が中川原橋付近で観察された。															
34	ウズラ	—	冬鳥	稀												
◎	2002年11月4日に第1回冬羽と思われる雄が1羽、かきつばた浄水場横の寿冷凍食品前の路上で落鳥体として拾得され、その後もかきつばた樋門付近で2回観察されている。															
35	キジ	○	留鳥	中												
◎	春先に雄の声がよく聞かれるが、個体数はそれほど多くないと思われる。雌が雛を連れて歩く姿も観察されている。															
36	ナベヅル	—	旅鳥	稀												
○	1997年11月28日と2004年11月14日にそれぞれ5羽が、中川原橋の下流側の上空を飛んでいるのが観察されている。															
37	マナヅル*	—	旅鳥	稀												
×	1999年11月16日に1羽、川の上空を通過したのが観察されており、これが唯一の記録である。夕方、松前町神崎から東方向に飛び立った個体。															
38	クイナ	—	冬鳥	低												
◎	ほとんどがかきつばた樋門付近での記録である。近年、次第に葦原が貧弱になっており、いつ見られなくなってもおかしくない状況である。															
39	ヒクイナ	○	夏鳥	低												
◎	かきつばた樋門付近でよく観察される。1984年6月24日に相川氏によって繁殖が確認されている。県内では越冬個体が時々確認されており、調査区域内でも越冬している可能性がある。															
40	バン	?	留鳥	低												
◎	幼鳥の記録は多いが、繁殖はまだ確認されていない。近年は中川原橋の下流側で観察されることがほとんどである。															
41	オオバン	—	冬鳥	稀												
◎	1996年12月7日と同月13日、2005年11月3日から同月19日にかけて、中川原橋の下流側でそれぞれ1羽が観察された。いずれの個体も長期滞在はしなかった。															
42	レンカク	—	?	稀												
×	1985年6月7日と翌8日に、学校の南側の川で夏羽が1羽、相川氏によって観察された。															
43	コチドリ	○	夏鳥	中												
◎	次種に比べて個体数は少ない。多くは夏鳥であるが、越冬個体も観察されている。2001年7月3日には雛が確認されている。															
44	イカルチドリ	△	留鳥	高												
◎	確実な繁殖記録はないが、繁殖していることはまず間違いない。個体数は冬期に多い。															
45	メダイチドリ	—	旅鳥	稀												
×	1994年5月1日に1羽、相川氏によって観察されたのが唯一の記録。河口部に多く、あまり上流へは上がって来ないものと思われる。															
46	ムナグロ	—	冬鳥	低												
◎	多くは旅鳥で、単独から十数羽の群れで見られる。11月下旬や2月上旬にも観察記録があり、これは重信川流域での越冬個体と思われる。															
47	ケリ	—	冬鳥	稀												
×	1992年4月21日に1羽、学校の南側の川の上空を、上流に向かって飛んでいくのが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。繁殖地への移動の途中と思われる。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
48	タゲリ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	中川原橋付近の川原で観察されることが多い。これまで10羽を超える群れは確認されていない。															
49	キョウジョシギ	-	旅鳥	稀					■	■			■			
◎	1995年まで毎年のように観察されていたが、その後まったく記録がない。見られた場所は学校の南側の川原で、近年は他のシギ類もここでは見られなくなっている。															
50	トウネン	-	旅鳥	低				■	■			■	■	■	■	■
◎	1羽～数羽、時に十数羽の群れが川原で観察されるが、最近では記録が少ない。															
51	ヒバリシギ*	-	旅鳥	稀					■				■			
◎	2005年8月27日に幼羽が1羽、中川原橋上流側の川原で確認されたのが唯一の記録である。															
52	オジロトウネン*	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2005年1月15日に4羽、中川原橋上流側の川原で観察されたのが唯一の記録である。															
53	ウズラシギ	-	旅鳥	稀					■	■			■			
◎	1992年9月1日に1羽が学校の南側で、2001年4月28日に5羽、2005年5月5日に1羽がそれぞれ中川原橋の下流側で、いずれも川原で確認されている。1985年5月5日に9羽、相川氏によって観察された記録もある。															
54	ハマシギ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1羽～数羽、時に20羽を超える群れが川原で観察されている。冬期にも数回記録されており、これらは重信川流域での越冬個体と考えられる。															
55	キリアイ	-	旅鳥	稀						■	■			■		
×	1997年9月27日に1羽、中川原橋の上流側の川原で観察されたのが唯一の記録。県内でも確認される個体数の多い種ではない。															
56	オオハシシギ*	-	旅鳥	稀					■	■			■	■		
◎	2006年10月22日及び翌23日に幼羽が1羽、中川原橋の下流側の川原で観察された。県内でもほとんど記録のない種である。															
57	ツルシギ	-	旅鳥	稀					■	■			■			
○	2002年9月28日と同月30日に1羽、いずれも中川原橋の下流側の川原で観察された。2回とも同一個体で、数日間滞在したものと考えられる。															
58	アカアシシギ	-	旅鳥	稀					■	■			■	■		
◎	1個体が川原で観察されることが多いが、1984年7月2日には4羽が相川氏によって記録されている。確認例は少ないが滞在することが多いようで、長い時は10日間ほど観察された。															
59	コアアシシギ	-	旅鳥	稀					■	■			■	■		
◎	1992年9月16日と2001年10月19日～29日にそれぞれ1羽が観察された。後者の個体は、中川原橋の下流側で滞在したのが確認されている。															
60	アオアシシギ	-	旅鳥	低					■	■			■	■		
◎	1羽～数羽が川原で観察されている。近年の観察記録は減少している。															
61	クサシギ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1羽～数羽が川原や用水路で観察される。調査区域内で最も普通に見られるシギ類で、6月以外のすべての時期に記録がある。															
62	タカブシギ	-	旅鳥	低					■	■			■	■		
◎	近年は記録が少ない。相川氏の観察記録によると、1984、1985年頃は観察される頻度も個体数も多かったようである。これは他のシギ類にも言えることである。															
63	キアシシギ	-	旅鳥	高					■	■			■	■		
◎	比較的、記録が多いシギ類。しかし近年は観察される個体数が少なくなっている。1996年5月11日に中川原橋の上流側の川原で、青色のレッグフラッグのついた個体が1羽記録された。															
64	イソシギ	×	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中記録があるが、繁殖はまだ確認されていない。調査区域内ではないが、重信川流域で繁殖が確認されている。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
65	ソリハシシギ	-	旅鳥	稀												
◎	1997年10月9日に4羽が中川原橋の上流側で、2005年5月3日に1羽が中川原橋の下流側で観察されている。1984年6月には相川氏によって1羽が観察されている。河口部に多いシギ類である。															
66	オグロシギ	-	旅鳥	稀												
○	1996年10月3日と2002年9月28日に、それぞれ1羽が中川原橋の下流側の川原で観察されている。															
67	ホウロクシギ*	-	旅鳥	稀												
◎	2005年3月13日に1羽、中川原橋の上流側の川原で確認されたのが唯一の記録である。															
68	チュウシャクシギ	-	旅鳥	稀												
◎	もともと観察記録は少なく、川原や農耕地で1羽～数羽が記録されている。															
69	ヤマシギ	-	冬鳥	稀												
○	1994年12月20日に1羽、高校構内で落鳥個体が拾得された。正面玄関の扉のガラスに衝突したと思われる。夜間、構内で採餌していた可能性がある。															
70	タシギ	-	冬鳥	中												
◎	1羽～数羽が観察される。渡りの時期にオオジシギなどの近縁種が立ち寄っている可能性が高いが未確認。															
71	セイトカシギ	-	旅鳥	稀												
◎	1996年4月23日～29日にかけて学校の南側で、2001年10月23日に中川原橋の下流側で、それぞれ1羽が川原で確認されている。															
72	ツバメチドリ	×	旅鳥	稀												
×	1993年5月29日に1羽、学校の南側の川の上空を飛び回る個体が観察されたことがあり、これが唯一の記録である。調査区域の少し下流側では繁殖が確認されたことがある。															
73	ユリカモメ	-	冬鳥	低												
○	近年の観察例は少ない。群れが川の上空を通過するのみで、採餌行動は確認されていない。															
74	ズグロカモメ*	-	冬鳥	稀												
◎	2006年12月24日と翌年1月8日にそれぞれ若鳥が1羽、重信川の上空を餌を探しながら飛び回ったり、川原で休んだりしているのが確認された。河口の満潮時に餌を求めて上がって来たものと思われる。															
75	アジサシ	-	旅鳥	稀												
×	1989年8月27日、台風が通過して増水したかきつばた樋門用水路付近の上空を飛び回っている、数十羽の群れが観察されたことがあり、これが唯一の記録である。															
76	コアジサシ	×	夏鳥	低												
○	1羽～数羽が上空を通過するのが観察される程度である。近年、記録が極端に少なくなった。															
77	キジバト	○	留鳥	高												
◎	一年中記録があり、繁殖も確認されている。															
78	アオバト*	-	?	稀												
◎	2005年4月18日から5月3日にかけて、サンパーク内で観察された。最大12羽が確認された。															
79	カッコウ	-	旅鳥	稀												
×	1984年5月30日と翌31日に1羽、かきつばた浄水場の西側の雑木林付近で、電線にとまって鳴いている個体が相川氏によって記録された。繁殖地への移動の途中と思われる。															
80	ホトトギス*	△	夏鳥	稀												
×	2003年6月16日に1羽、学校付近で鳴いている個体が記録されており、これが唯一の記録である。															
81	コミミズク	-	冬鳥	稀												
◎	1992年12月22日と1996年1月5日にサンパークの南側の川原で、2002年11月12日～20日に中川原橋の下流側で、それぞれ1羽が観察された。1984年11月7日にも1羽、相川氏によって記録されている。															
82	アオバズク	△	夏鳥	稀												
×	1993年6月7日の夜、学校の北側で1個体の声が聞かれたのが唯一の記録である。繁殖場所は不明である。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
83	フクロウ	-	?	稀												
○	1990年10月31日と11月6日にそれぞれ1羽、サンパーク内の木にとまっているところが観察された。移動途中の個体ではないかと思われる。															
84	ヒメアマツバメ	-	冬鳥	低												
○	冬期から春期にかけて、川の上空を飛び回る群れが観察されているが、記録自体は少ない。															
85	アマツバメ	-	旅鳥	低												
○	渡りの時期に単独、もしくは数羽～数十羽の群れで川の上空を飛び回るのが観察されている。															
86	ヤマショウビン*	-	旅鳥	稀												
×	1990年5月28日に1羽、河野さんという方により中川原橋付近で観察されたのが唯一の記録である。															
87	カワセミ	○	留鳥	中												
◎	一時、観察記録が減少していたが、近年になって増えてきた。冬期に記録が多い。相川氏によると、1980年代には複数のつがいが繁殖していたという。															
88	アリスイ	-	冬鳥	稀												
×	2002年11月12日に1羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録である。															
89	コゲラ	△	留鳥	低												
◎	調査区域内では1995年に初めて記録されたが、サンパーク内にはもっと以前から生息していたものと思われる。2005年4月にはサンパーク内で、成鳥の巣穴への出入りが観察された。															
90	ヒバリ	○	留鳥	高												
◎	一年を通して生息しており、繁殖も確認されている。春期から夏期にかけてさえずりが聞かれるが、秋期や冬期にも暖かい日にはさえずりを聞くことがある。															
91	ショウドウツバメ	-	旅鳥	稀												
×	1994年10月24日に8羽がかきつばた樋門付近の上空で、2005年10月23日に2羽が中川原橋下流側の上空で観察された。秋の渡りの時期に見られる。天気の良い日は低く飛ぶようで、記録された日も曇っていた。															
92	ツバメ	○	夏鳥	高												
◎	毎年、2月の終わりか3月の初めに初認されるが、1月下旬や2月上旬の観察記録もある。最も遅い終認記録は11月11日である。高校構内で繁殖が確認されている。															
93	コシアカツバメ	△	夏鳥	低												
○	1991年と1992年の6月に、高校構内で巣を作り繁殖を試みたが、いずれもスズメに巣を乗っ取られ、繁殖は失敗している。その後は繁殖期に観察されなくなり、渡りの時期に時々記録される程度である。															
94	イワツバメ	-	旅鳥	稀												
×	1985年4月12日、相川氏により10+羽が観察されたのが唯一の記録である。渡りの途中と思われる。															
95	ツメナガセキレイ*	-	冬鳥	稀												
○	2004年11月14日に1羽、中川原橋の下流側の中洲の草地で観察されたのが唯一の記録である。															
96	キセキレイ	×	留鳥	中												
◎	個体数は少ないが、ほぼ一年中記録がある。調査区域内でさえずりは聞かれておらず、繁殖していないものと思われる。															
97	ハクセキレイ	×	冬鳥	高												
◎	主に冬期に観察されるが、近年は夏期にも記録される。県内においても近年になって繁殖の確認例が増えてきており、一部は留鳥となっているようである。															
98	セグロセキレイ	△	留鳥	高												
◎	調査区域内で繁殖しているものと思われる。1993年10月16日にかきつばた浄水場の南側で、1994年9月10日には学校の北側でそれぞれ1羽、頭部が白い部分白変個体が観察されている。															
99	ピンズイ	-	冬鳥	低												
◎	秋期に川の上空を鳴きながら飛ぶ個体が時々観察される。春期は、1991年4月1日に1羽が観察されたことがあるのみである。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
100	タヒバリ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	秋期から春期にかけて、川原や農耕地で小群が観察される。															
101	ヒヨドリ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	調査区域内に一年中見られるが、繁殖しているのはごく少数で、越冬する個体が多い。渡りの時期には群れが上空を飛んで行くのが観察される。															
102	モズ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年を通して記録はあるが、繁殖期にはあまり目立つ場所へ出てこないため、なかなか観察できない。馬小屋付近で繁殖が確認されている。															
103	キレンジャク	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1993年4月21日に1羽が校門付近で、1995年4月17日に6羽が学校の南側で記録されている。次種とともに、渡来する個体数が年によって大きく変動する。															
104	ヒレンジャク	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1995年3月22日に10+羽が学校の南側で、2001年4月28日に9羽、2003年3月8日に3羽がそれぞれかきつばた浄水場付近で観察されている。1985年3月6日にも5羽が相川氏によって記録されている。															
105	ノゴマ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1990年5月に高校構内で落鳥した雄が1個体拾得されている。1996年11月3日～10日には構内に滞在した雄1羽が確認されている。他にも数例の観察記録がある。															
106	ジョウビタキ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に観察されるが、近年は記録される個体数が少なくなったように思われる。毎年10月下旬に初認され3月まで滞在するが、4月下旬にも記録がある。															
107	ノビタキ	-	旅鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	渡りの時期に1羽～数羽が観察される。秋期に記録が多く、春期には少ない。春期は4月に、秋期は9月上旬から11月上旬まで記録されている。															
108	イソヒヨドリ	×	?	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2002年9月30日に雌が1羽、2006年10月22日に雄の若い個体が1羽、それぞれ中川原橋の橋脚で観察された。調査区域外ではあるが、1995年1月に雌が1羽、少し上流の重信大橋の橋脚でも記録されている。															
109	トラツグミ	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1990年2月12日に1羽、かきつばた浄水場の西側の雑木林で観察されたのが唯一の記録である。															
110	クロツグミ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2002年11月16日と翌17日に、雄の冬羽と思われる個体が1羽、サンパーク内で確認された。越冬する可能性はあるが、結局渡去したようである。															
111	アカハラ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1993年4月19日に1羽、学校の南側で初めて観察された。その後、サンパーク内などで複数回記録されている。2002年の11月には十数羽の群れが確認されている。															
112	シロハラ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に河川敷のやぶやサンパーク内で観察されるが、個体数は多くない。高校構内でも少数が見られ、窓ガラスに当たって保護された個体もいる。															
113	マミチャジナイ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2002年11月11日に1羽、サンパーク内で初めて観察された。その後、同地で複数回確認されており、多い時には8羽が記録されている。2006年の春期にも確認された。															
114	ツグミ	-	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に観察されるが、年によって現れる時期が異なる。早ければ11月中に、遅い時は年が明けてから姿を見せる。5月上旬まで記録がある。															
115	ヤブサメ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1992年10月29日に1羽、高校構内で落鳥個体が拾得され、2003年10月20日には同じく1羽が構内で観察された。2005年4月23日にはサンパーク内で1羽が確認されている。すべて渡りの途中の個体である。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
116	ウグイス	△	留鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中記録があるが、秋期には記録が少ない。春期にさえずりが聞かれるが、繁殖は未確認である。															
117	オオヨシキリ	△	夏鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	巣にいる雛へ餌を運んでいると思われる行動が観察されているが、巣や雛は未確認である。一時、大雨の後の増水や河川改修工事の影響を受けて葦原が減少し、本種の個体数もかなり減少したが、回復傾向にある。															
118	メボソムシクイ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1994年10月8日に2羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録。渡りの途中に立ち寄ったものである。															
119	センダイムシクイ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2001年9月10日に1羽、高校構内で落鳥個体が拾得された。その後、2005年4月21日と同28日に1羽がサンパーク内で、2006年8月27日に2羽が馬小屋付近で記録された。サンパーク内の個体はさえずりが聞かれた。															
120	キクイタダキ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2002年3月25日に雄が1羽、高校構内で落鳥体として拾得された。その後、2005年11月1日に雄と雌が1羽ずつ、サンパーク内で確認された。渡りの途中と思われる。															
121	セッカ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中生息するが、冬期は草むらに潜んでいて観察するのが難しい。繁殖が確認されている。															
122	キビタキ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2001年9月10日に幼鳥が1羽、高校構内で保護された。春期と秋期に数回、1個体が観察されている。															
123	オオルリ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1992年4月下旬に雄1羽の落鳥体が高校構内で拾得された。春期と秋期に1羽もしくは2羽が観察されている。本種は前種とともに、繁殖地へ渡る途中に立ち寄るのみである。															
124	サメビタキ	-	旅鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	1994年10月8日に1羽が、同13日に2羽が、それぞれサンパーク内で観察された。															
125	エソビタキ	-	旅鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	9月下旬から10月下旬にかけて1羽から3羽が記録されている。本種は前種とともに秋期にのみ観察される。															
126	コサメビタキ	-	旅鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	春期と秋期に1羽から4羽が記録されている。春期にはサンパーク内でさえずる個体が数回確認されているが、繁殖地へ渡る途中に立ち寄るのみである。															
127	エナガ*	-	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
×	2003年1月10日に10+羽、高校構内で観察されたのが唯一の記録である。															
128	ツリスガラ	-	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	広い葦原がないためか、観察記録は少ない。真冬の記録はない。近年、特に記録が少なくなっている。															
129	ヤマガラ	×	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1994年10月にサンパーク内で初めて記録されたが、もっと以前から生息していたものと思われる。ほとんどがサンパーク内での記録である。															
130	シジュウカラ	△	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	ヤマガラと同様、1994年10月にサンパーク内で初めて記録されたが、もっと以前から生息していたものと思われる。ほとんどがサンパーク内での記録である。2001年7月には巣立ち雛が観察されている。															
131	メジロ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	サンパーク内での記録が多いが、冬期は他の場所でもよく見られる。繁殖期には見られない。高校構内では窓ガラスに衝突した個体が時々拾得される。															
132	ホオジロ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中生息し、個体数は多い。繁殖も確認されている。															
133	ホオアカ	-	冬鳥	中	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に河川敷の低い草地に生息するが、草むらに潜んでいることが多く、観察することは難しい。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
134	カシラダカ	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に観察され、年による渡来個体数の変動が大きい。相川氏によると、1980年代頃まではホオジロよりも個体数が多かったとのことである。															
135	ミヤマホオジロ*	—	旅鳥	稀				■	■							
◎	2005年4月18日と2006年3月21日にそれぞれ雌が1羽、サンパーク内のやぶの中で観察された。渡りの途中と思われる。															
136	ノジコ	—	旅鳥	稀				■	■							
○	1995年4月28日に3羽、サンパーク内で観察されたのが唯一の記録である。															
137	アオジ	—	冬鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に河川敷のやぶなどで観察される。開けた場所へはあまり現れない。春期には樹上で新芽をついばんだり、さえざる個体が観察されている。															
138	クロジ*	—	旅鳥	稀				■	■							
◎	2005年4月18日から同24日にかけて、雄の若い個体が1羽もしくは2羽、サンパーク内で確認された。ここで越冬したわけではなく、渡りの途中に立ち寄ったものと思われる。															
139	オオジュリン	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	葦原で数羽から十数羽の群れが観察される。葦原が少なくなったためか、近年は記録がほとんどない。															
140	アトリ	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
○	2002年11月1日に4羽、サンパークの南側の上空を飛んでいるのが観察され、これが唯一の記録である。															
141	カワラヒワ	△	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中観察されるが、繁殖期は個体数が少ない。冬期には大きな群れが見られることがある。2001年8月には幼鳥が観察されており、調査区域内で繁殖している可能性がある。															
142	ベニマシコ	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1989年3月30日に雄が1羽、かきつばた樋門の南側で、相川氏によって観察されたのが唯一の記録である。															
143	コイカル	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	1991年4月13日に10+羽、2004年12月25日に雌1羽が、それぞれかきつばた浄水場付近で確認された。どちらもイカルとは混じっていなかった。															
144	イカル	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に数羽から数十羽の群れが観察されており、多くはサンパーク内での記録である。															
145	シメ	—	冬鳥	低	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	冬期に数羽が観察される。ほとんどがサンパーク内での記録であるが、かきつばた浄水場の西側の雑木林などでも観察されている。イカルよりも記録は多い。															
146	ニューナイスズメ*	—	旅鳥	稀				■	■							
○	2006年4月8日に雌が1羽、かきつばた浄水場付近で観察されたのが唯一の記録である。渡り途中の個体のように、すぐに飛び去った。															
147	スズメ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中生息し、高校構内で繁殖が確認されている。馬小屋付近などには群れが住み着いている。															
148	コムクドリ	—	旅鳥	低				■	■							
◎	渡りの時期に1羽～数十羽が観察されている。調査区域内で樹木が減少したためか、近年は春期の記録が少なくなった。春期は本種だけの群れでいるが、秋期はムクドリの群れに混じっていることがほとんどである。															
149	ホシムクドリ*	—	冬鳥	稀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	2005年11月23日に1羽、かきつばた樋門付近の電線にとまっているのが確認された。移動途中の個体のように、すぐに飛び去った。															
150	ムクドリ	○	留鳥	高	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
◎	一年中観察され、中川原橋の橋脚などで繁殖が確認されている。非繁殖期の夕方には、ねぐら入り前の大きな群れが観察される。															

No.	種名	繁殖	時期	頻度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
151	コクマルガラス	—	冬鳥	稀												
◎	10月下旬から11月下旬にかけて1羽ずつが数回記録されている。この中では暗色型の記録が多いが、1995年11月25日にはかきつばた浄水場西側の雑木林で淡色型が観察されている。															
152	ミヤマガラス	—	冬鳥	低												
◎	冬期に数羽から数百羽の群れが観察される。ねぐらへ向かう途中の群れが観察されることが多い。ハシボソガラスの群れに混じっていることもある。															
153	ハシボソガラス	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、かきつばた樋門周辺などによく群れている。高校構内やその周辺で繁殖が確認されている。															
154	ハシブトガラス	○	留鳥	高												
◎	前種よりも個体数がかかなり少なく、しばしばその群れの中に混じっている。サンパークの電波塔に営巣し、繁殖したのが確認されている。															

外来種もしくはかご抜けの種

1	アヒル	×	留鳥	高												
◎	1997年3月8日にクロアヒルの雄と思われる1個体が、学校の南側の川で観察されたが、滞在はしなかった。中川原橋の南西にあるひよこたん池では複数の飼育個体が見られる。															
2	ウズラ*	—	?	稀												
◎	2003年5月23日に雄が1羽、同月26日に雄が4羽、かきつばた樋門付近で確認された。飼育されていたものが逃げ出したのか捨てられたのか不明である。															
3	コリンウズラ*	—	?	稀												
◎	2003年1月15日に雌3羽が高校構内で確認された。その後も何回か観察された。飼育個体が逃げ出したのか捨てられたのか不明である。															
4	コジュケイ	×	?	稀												
○	1993年と1995年の春期に、かきつばた浄水場の西側の雑木林で鳴き声が何度も聞かれている。その後はまったく記録がない。															
5	コウライキジ	×	?	稀												
◎	2001年5月16日と同年11月7日にそれぞれ雄が1羽、かきつばた樋門付近で確認されている。キジとは亜種の関係にある。															
6	ニワトリ(ウコッケイ)	—	?	稀												
◎	2001年11月2日に1羽がかきつばた樋門東側の農耕地で、2002年5月17日に雄1羽が学校の南側で観察されている。その後は記録がない。飼育されていたものが逃げ出したのか捨てられたのか不明である。															
7	カワラバト(ドバト)	○	留鳥	高												
◎	一年中生息し、中川原橋や馬小屋付近に個体数が多い。高校構内で繁殖が確認されている。															
8	セキセイインコ	×	?	稀												
○	1990年10月21日にかきつばた浄水場の西側で、2001年9月26日と同年10月23日に中川原橋の下流側で、それぞれムクドリに混じった1個体が観察されている。															
9	コザクラインコ	—	?	稀												
◎	1995年5月22日に1羽、高校構内で保護されたのが唯一の記録である。翌日には死亡した。飼育されていた個体が逃げ出したものと思われる。															
10	ベニスズメ	△	?	稀												
○	1993年9月15日に雄が1羽、高校構内で保護されその後放鳥された。1984年10月14日には、かきつばた樋門付近で2+羽が相川氏によって観察されている。この時、雄が盛んに巣材を運び込んでいたとのことである。															

落鳥した種と保護された種

落鳥	ウズラ、ヤマシギ、キジバト、ノゴマ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キクイタダキ、セッカ、オオルリ、メジロ、スズメ、コザクラインコ
保護	コガモ、シロハラ、キビタキ、メジロ、スズメ、カワラバト(ドバト)の雛、ベニスズメ

3. 記録写真



ササゴイ
2006年5月6日
内川 中川原橋下流

オカヨシガモ♂
2005年4月7日
重信川 中川原橋上流



ヒクイナ♂
2006年5月6日
重信川・内川合流点付近



オジロトウネン
2005年1月15日
重信川 中川原橋上流
(山本泰彦氏 提供)

オオハシシギ
2006年10月22日
重信川 中川原橋下流
(宮岡速実氏 提供)



ハウロクシギ
2005年3月13日
重信川 中川原橋上流

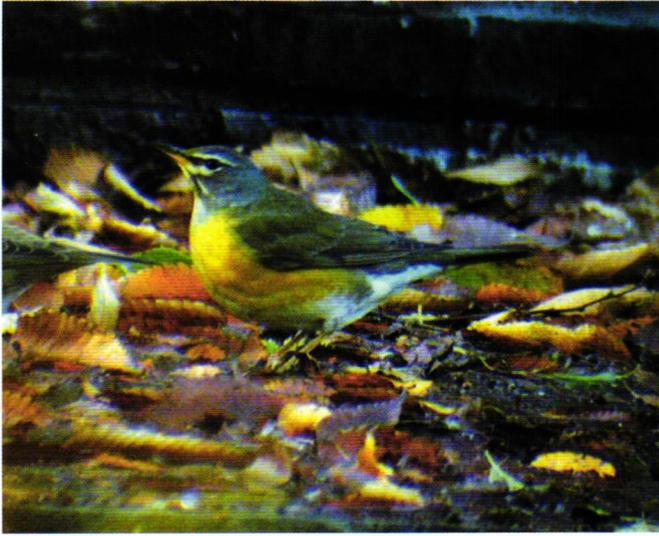


ハイタカ♀
2005年11月19日
かきつばた浄水場付近

アオバト♀
2005年4月21日
サンパーク内

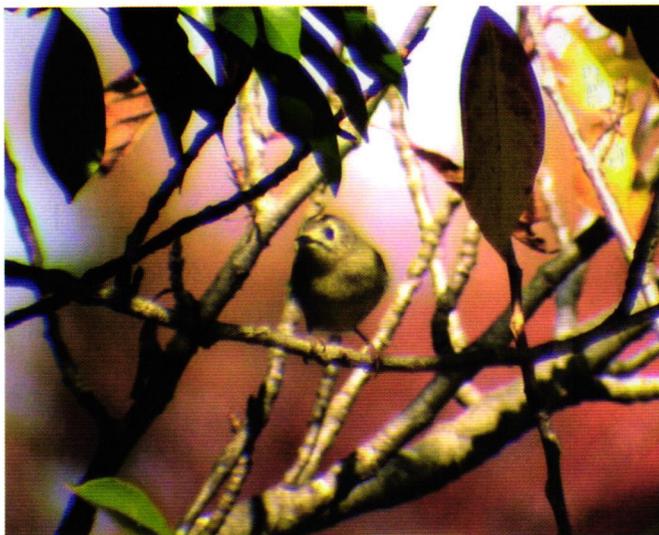


イソヒヨドリ♂
2006年10月22日
内川 中川原橋橋脚



マミチャジナイ♂
2002年11月16日
サンパーク内

センダイムシクイ♂
2005年4月21日
サンパーク内



キクイタダキ♀
2005年11月1日
サンパーク内



キビタキ♂
2005年4月23日
サンパーク内

オオルリ♂
2005年4月24日
サンパーク内



クロジ♂
2006年4月24日
サンパーク内



コイカル♀
2004年12月25日
かきつばた浄水場付近
(山本泰彦氏 提供)

ホシムクドリ
2005年11月23日
かきつばた樋門付近



コリンウズラ♀
(かご抜け)
2003年1月15日
中央高校構内

IV あとがき

顧問 渡 邊 豊

松山中央高校 20 周年を迎える今年度、調査報告集を刊行できることをとても喜んでいきます。バードウォッチング部は少ない部員ながらも、今年度も様々な思い出ができました。4月より、本調査集のために研究活動をスタートさせました。8月には、休止していた岩城島合宿を再開しました。OBの方々に御指導いただきながら、島の最高峰積善山登山を行うなど岩城島を散策しました。岩城の宮脇馨さんの御配慮により、普段は訪れることができない赤穂根島の調査・散策も実施しました。とても有意義な日を過ごせたと思います。

10月の20周年記念中央祭では、先輩方が現役部員当時に作成されたパネルや立体模型の展示とともに、岩城島合宿の成果の展示発表や、探鳥会などで撮影した野鳥写真のパネル展示を行いました。過去に作成いただいた膨大な資料を利用させていただきながら、少しでも新しく後輩へ残せるものを作ろうと考えての作業でした。

そして、今は調査集の編集作業を行っています。

高橋淳先生から顧問を引き継いで、当初は、「重信川に野鳥なんているのか」と思っていました。実は、鳥たちはさえずっていたのですが、私たちは、それを聞く耳を持っていないだけでした。自然と調和している音に耳を傾ける努力を怠っていただけなのではないかと感じました。先日、バードウォッチング部のOB会に参加させていただきました。佐野章雲先生を始め、本当にたくさんの先輩方が「松山中央高校バードウォッチング部」の名の下に集まっている姿に感激しました。中には、野鳥や自然環境の研究をライフワークに掲げている方もおられました。高校での部活動がきっかけで進路を決めた方も大勢いると聞きました。現在、高校生たちが楽しく部活動できるのも、彼らOBの力があってこそだと思います。特に、5期生の小川次郎さんには本当にお世話になりました。現在までバードウォッチング部が続いているのは、小川さんのおかげです。また、これだけのデータを整理して冊子にまとめることができたのも、小川さんのおかげです。ありがとうございました。

最後になりましたが、貴重な観察記録や野鳥写真を提供して下さった日本野鳥の会愛媛県支部の相川善一さん、宮岡速実さん及び山本泰彦さんに心よりお礼申し上げます。

こうして、多くの方に支えられ、育てられている部活動ですので、創部当初の理念を忘れてはいません。今後も、重信川を、いつまでも野鳥の楽園として守っていくために、私たちバードウォッチング部は日々の活動を続けて参ります。

2007年1月

V 文 献

- 愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部 (1993) 重信川中流域の野鳥. 22pp.
愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部 (1996) 重信川中流域の野鳥調査 1995年5月～1996年5月. 23pp.
愛媛県立松山中央高等学校バードウォッチング部 (2002) 重信川中流域の鳥類調査 2001年4月～2002年4月. 34pp.
日本鳥類目録編集委員会 (2000) 日本鳥類目録 改訂第6版 2000. 345pp. 日本鳥学会.
日本野鳥の会愛媛県支部 (1995) 改訂版 愛媛の野鳥観察ハンドブック はばたき. 383pp. 愛媛新聞社.
小川次郎・下田勝 (1996) サンパークの野鳥調査－調査報告書－. 15pp.
高野伸二 (1982) フィールドガイド 日本の野鳥 増補版. 342pp. 日本野鳥の会.

VI 部員紹介

名誉顧問	佐野 章雲	高橋 淳	廣田 章子			
顧 問	渡邊 豊	白戸 有紀				
1期生	梅木 達也 森本 和則	栗原 高亮	清水 大輔	関 清仁	永安 聖二	
2期生	大西秀次郎	武市美枝子	谷 千寿子	富岡 秀幸	中村 綾	
4期生	越智 敏幸	伊藤みはる	上元 明子	加藤 宝	松友 崇	
5期生	小川 次郎 小西 末由	阿部 史子 丹生谷礼香	新井 祐子	井伊 直美	井上 栄子	
7期生	宇都宮芳江	戒田 智子	田中 恭子	谷 真木	鳥生 明子	
8期生	瀧山 和也	北谷 篤	木下 明子	富岡 静香	中井 崇人	
9期生	田井 穰	池内 和浩	山本 舞			
10期生	今村 達紀	池田 公平	石川 隆之	藤岡 寛		
12期生	相原 由美	泉原 愛	松久 祥子			
15期生	上沖 正欣	高橋 良太				
17期生	玉井 佐知	加藤 明夏	鷹尾 美香	中曾 愛弓		
19期生	高田 直紀					
20期生	長谷 和樹					

重信川中流域の鳥類調査 2006年

発行日	2007年2月1日
編集発行	愛媛県立松山中央高等学校 バードウォッチング部 〒791-1114 松山市井門町1220番地 TEL (089)957-1022 URL http://matsuyamachuo-h.esnet.ed.jp (中央高校) http://birdingclub.gozaru.jp (バードウォッチング部)
	顧問 渡邊 豊 ・ 白戸 有紀 部長 高田 直紀 副部長 長谷 和樹 OB 小川 次郎 ・ 上沖 正欣
印刷者	(株) 明朗社